



竹の明かりは 優しく包みこむように。

竹が光る、とくればだれもが思い浮かべるのはかぐや姫である。竹林で輝きを発する一本を見つけた翁はさぞ興奮したことだろう。

その翁ほどではないかもしれないが、森下智道さん(写真・左)も十数年前に光る竹すなわち「竹灯籠」と出会ったときは強く心を打たれた。この世界に自分も踏みこもうと決めた。懸命に技術を習得する。そして、湯梨浜町にこのアートを広め、「まちおこし」に貢献しようと思った。すると師匠(熊本在住)は言う。「あんまり意気込むと長つづきしないよ」。その教えがあるせいか、森下さんの竹灯籠工房の活動は悠々ときわめてマイペースだ。出張教室で子どもたちと楽しみながら広めてゆく。美容室などに納めることも始める。かつて敏腕の営業マンだったから、そのあたりは得意分野だ。名古屋や京都からも引き合いが来始めた。優秀な門下生、山下洋子さん(写真・右)が協力してくれるようになったのは2015(平成27)年から。京都で添乗員の仕事をしていた山下さんは英語が堪能だけでなく、書道家でもありアートところは豊かだ。海外からのお客さまには絶好のコンシェルジュ。「京都の観光客の多さに、さすがにうんざりしていた」から、このまちのゆったりした風土には心からほっとしている。「竹の魅力は奥が深いです」。工房の主人、森下さんはいくつかぐや姫の竹に宿る月の明かりを、人びとに楽しませられる職人だ。

竹灯籠工房

森下智道

山下洋子



ゆ
う
ゆ
う、
は
り
ま